

安曇野市水道事業運営審議会 会議録

- 1 会議名 平成27年度 第1回安曇野市水道事業運営審議会
- 2 日時 平成28年1月26日(火) 午後1時30分から3時40分まで
- 3 会場 安曇野市本庁舎 4階 会議室401
- 4 出席者 飯沼良明会長、市川節子副会長、赤澤喜夫委員、百瀬重俊委員、務基和加代委員、臼井長男委員、窪田朗子副委員、平林博委員、望月静美委員
- 5 市側出席者 竹花顕宏上下水道部長、二木貞安経営管理課長、水谷茂上水道課長、小松久芳管理係長、横山友明工務係長、中島裕主事
洞武志庶務担当係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 2人
- 8 会議録作成年月日 平成28年2月15日

開始 午後1時30分

○ 開会

事務局（二木貞安経営管理課長）

それでは、お知らせをしました時間になりましたので、平成27年度第1回水道事業運営審議会を開催をさせていただきます。本日進行をさせていただきます経営管理課長の二木と申します、よろしくお願ひいたします。まずは先にお送りさせていただきました決算書に印刷ミスがございまして大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここでお詫びを申し上げます。本日、委員さんの出席につきまして望月妃佐枝委員さんが農業委員会への出席のため欠席との連絡をいただいております。委員の皆さんには大変お世話になります。よろしくお願ひいたします。それでは上下水道部長よりごあいさつをさせていただきます。

○ あいさつ（竹花顕宏上下水道部長）

改めまして、安曇野市上下水道部長の竹花顕宏と申します。よろしくお願ひいたします。本日の審議会開催に当たりましてご案内申し上げましたところ新年を迎え一段と寒さが厳しい中ご出席を賜り誠にありがとうございます。また平素から水道事業の運営をはじめとする市政全般にわたり格別なご理解とご協力をいただいていることに対して厚く御礼を申し上げます。

さて、水道事業では平成24年度から4カ年計画で三郷地域水源転換事業を進めてまいりました。この事業では、三郷地域の水道水源を黒沢川の表流水から地下水に転換することとし、これまでに野沢水源ポンプ場や室町調整池の建設、また豊科真々部配水場から野沢水源ポンプ場までの送水管の工事が完了したことから、昨年4月より三郷地域のすべての水道水源を地下水に転換することができました。これにより安曇野市の水道水が100%地下水で賄われるようになったということでございます。本年度は平成26年11月に発生した長野県神城断層地震の影響により、真々部配水場の井戸水に濁りが生じたことを踏まえ、濁水対策として濁りを除去するろ過装置設置工事を行い事業が順調に完了する見込みです。これにより水源転換事業で計画した工事がすべて完了することから、本年の4月に完成式典を執り行う予定としております。その際には審議会の皆様にもご出席を賜りたいと存じますので、よろしくお願ひいたします。また、平成28年度には現在の豊科・三郷事業を統合した安曇野市事業、それから穂高・堀金・明科の4つに分かれている事業の統一を目指しており、これに合わせ経営の統合も図っていきたいと考えております。加えて、平成21年3月に策定した、市の水道事業の長期的な経営計画である「安曇野市水道ビジョン」、これにつきまして、事業を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、その内容を見直し、改

めて「新水道ビジョン」を平成28年度に向けて策定することといたしました。今後も市民の皆様にとって重要なライフラインである水道水を安全かつ安定的に供給することは私たち水道事業者としての使命であることから、人口減少などによる水需要、ひいては料金収入の増加が見込めない状況ではありますが、コストの削減や、計画的、また効率的な施設整備を通じて健全な経営に努めてまいりたいと思っております。

終わりに、審議会の皆様には、ぜひ水道事業における課題について、また、新水道ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げまして開催に当たってのあいさつといたします。本日はよろしくお願ひいたします

事務局（二木貞安経営管理課長）

それでは、つづきまして飯沼会長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○ あいさつ（飯沼良明会長）

飯沼でございます。恥ずかしながら会議のご連絡をいただくまで、この審議会のメンバーあることをすっかり忘れておひまして申し訳ございません。日本人は昔から平和と水はタダと思ひているような悪口を言われてきましたけれども、とんでもない話でござひまして、この水というのは行政の皆さんの血のにじむようなご努力のおかげで毎日、おいしい水をいただひているわけで、この審議会といたしましても行政の皆さんに感謝申しあげながら、市民の目線ですべての問題についてご意見を申しあげたいと思ひておひますが、あと1年ほどの任期になりますのでよろしくお願ひいたします。

事務局（二木貞安経営管理課長）

ありがとうございます。つづきまして本年度1回目の審議会となりますので、上下水道部の職員より自己紹介をさせていただきます。続いて委員の皆様より自己紹介をいただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

事務局（二木貞安経営管理課長）

お世話になっておひます、水道事業、来年度から下水道事業についても公営企業ということになりますので、その経理等を担当しておひます経営管理課長の二木と申します。よろしくお願ひいたします。

事務局（水谷茂上水道課長）

上水道課長の水谷と申します。上水道課では、工事とか、宅内工事関係、水質検査等の施設管理を行っておひますのでよろしくお願ひいたします。今日は維持係長の青柳が欠席ということですが、よろしくお願ひいたします。

事務局（小松久芳管理係長）

上水道課管理係長をしておひます小松と申します。管理係ですが、主に給水装置の宅内検査の関係を行っておひます。よろしくお願ひいたします。

事務局（洞武志庶務担当係長）

経営管理課庶務担当係長の洞武志と申します。主に上水道事業に係る経理・経営について担当しておひます。よろしくお願ひいたします。

事務局（横山友明工務係長）

上水道課工務係長の横山と申します。担当ですが、施設の更新・工事を担当しておひます。よろしくお願ひいたします。

事務局（中島裕主事）

上水道課管理係主事の中島裕と申します。本日の議題である新水道ビジョンの経営の統合認可

の担当をしております。よろしくお願いいたします。

事務局（二木貞安経営管理課長）

それでは、会長さんからはごあいさつをいただきましたので、副会長さん、豊科・穂高・三郷・堀金・明科の委員さんの順で、よろしくお願いいたします。

市川節子副会長

豊科地域の市川節子でございます。昨年度からと副会長を仰せつかりました。本当に水道は奥が深く、何回か委員をやらしていただいているのですが、その度になるほどと感ずることがたくさんあります。お世話になります。

赤澤喜夫委員

豊科の赤澤でございます。先ほど部長さんのあいさつの中で今度の4月に記念式典を行うということで楽しみにしております。

百瀬重俊委員

三郷の百瀬です。よろしくお願いいたします。

務臺和加代委員

三郷の務臺です。去年1年勉強をさせていただいて、自分自身とてもためになったと思っています。人にも話ができるようになったことも少し勉強したかなと思えました。また今年1年学ばしてもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

臼井長夫男委員

堀金の臼井長夫と言います。よろしくお願いいたします。

窪田朗子委員

堀金の窪田と言います。よろしくお願いいたします。ここにも安曇野の水がありますけれども、主人が今、所沢に単身赴任しております。家の水がまずくて飲めないで、そのぐらい買えばいいと思うんだけど、ペットボトルに水を入れて何本か持って行っていますけれども、本当においしい水を大切にしたいと思っています。私は最初から係わらせているのですが思い返してみるといろいろなことを乗り越えながらここまで来たんだと思いますけれども、もう少し頑張らせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

平林博委員

明科は南陸郷の平林です。よろしくお願いいたします。

望月静美委員

同じく明科の望月静美でございます。よろしくお願いいたします。今日出て来る前に昨日の防災無線で、水道の検針があるということを言っていたと思い出して、メータを掘り出してきました。雪の山になっていたのどこにあるんだろうと思って、やっとの思いで探し当てました。検針員さんにいろいろご苦労いただいているので申し訳ないと思って。今後ともよろしくお願いいたします。

事務局（二木貞安経営管理課長）

ありがとうございました。それでは、安曇野市水道事業運営審議会条例第6条によりまして、会議の議長は会長が行うとなっておりますので、飯沼会長より議事進行をお願いいたします。

飯沼良明会長

それでは、会議のシナリオに基づいて進めたいと思います。委員の皆様のご協力をお願いします。

飯沼良明会長

それでは、

「平成26年度安曇野市水道事業決算について」事務局から説明をお願いします。

～事務局から説明～

飯沼良明会長

ありがとうございました。難しい話で、私ども9割以上わからないところがあるままなんです
が、委員の皆様ご質問がありましたらどんなことでもよろしいかと思っておりますのでお願いします。

百瀬重俊委員

固定資産のうち、多い、構造物というのはどんなものになるのでしょうか。配水管の耐用年数はどれくらいになるのでしょうか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

構造物につきましては、主に水道管路です。送水管とか、配水管とかで、皆様のところへ水をお配りする施設、あるいは配水場とかになります。減価償却につきましてはそれぞれ施設によって異なりますが、配水管は40年になります。

事務局（水谷茂上水道課長）

ちょっと余談の話になりますが。配水管・配水給水管は安曇野市全体で950km位になります。配水管の耐用年数は40年ということでありまして。以前、震災前までは配水ポリエチレン管というのが耐震管とは言わなかったのですが、それ以後ダクタイル鋳鉄管と、配水ポリエチレン管が耐震管ということになりまして、それを布設しているということがございます。施設については、皆さんに水をお配りする配水池、PCというコンクリートで丸く造られたもの、あれが耐用年数は60年とかで、後になりますけどビジョンの中でももう少し寿命を延ばそうと、会を重ねる中でさせていただければと思っております。

飯沼良明会長

他にございましたら、どうぞ。

赤澤喜夫委員

教えてください。企業債のことになりますが、償還金残高、約90億円になっていますが、償還金のピークが何年ごろでいくらぐらいなのか教えてください。

事務局（洞武志庶務担当係長）

償還元金のピークは平成28年度で6億4100万円の償還額となります。お手元の決算書のP34～36に企業債の明細がありますので詳しくはそちらをご覧ください。各ページの右から二列目のところに償還終期というものを記載しております。また参考までに申し上げますが、平成47年度が最終の償還年度となっております。

飯沼良明会長

それでは他にご質問のある方、どうぞ。

窪田朗子委員

中央監視制御設備が、新庁舎に設置されたということですがけれども、私たち前に見せていただいた穂高にあった物と併用ということではなく、ここだけで管理できるということなののでしょうか。

事務局（水谷茂上水道課長）

よろしければ後ほどご覧いただけますので、その時にお話しさせていただこうと思っておりますけれども、安曇野市の5地域で水源が休止中のものもありますが、33本の井戸があります。配水

池が45カ所、施設といわれるものが110カ所以上ありまして、それを管理しているということになります。今まで監視設備のメーカーが違っていきまして、メーカーが違うとなかなか接続がうまくいかないことがあったりして片方はパソコンでコントロールしていたり、水を上げるのを手動で行ったり、自動で行ったり、やっていないところがあったりまちまちでした。先ほどの穂高の話ですが、制御盤がそこにありまして、一旦そちらにデータを集め、そこから本庁舎の中央監視システムへ送ります。例えば今回実施した三郷拡張事業ですが、今まで小倉の配水場にあったものが、取り壊してなくなってしまう。三郷はすべて室町調整池に集めて、そこから本庁舎へ送ってくるということになります。結果的には各地域の主要な施設にデータを集め、そこから本庁舎の中央監視へ回線を通じて送ってきている、そういう状況になります。

飯沼良明会長

よろしいでしょうか。他にご質問ありましたら、どうぞ。

臼井長男委員

ちょっとお聞きしますが、有収率の関係で堀金が72.4%。穂高の場合もそうなのですが、穂高の場合には下水道整備の進捗状況が分からないですが、堀金の場合には下水道整備がほとんど終わっていると思うのですが、有収率が低いのは何か理由がありますか。

事務局（水谷茂上水道課長）

水道ビジョンの検討資料のところの5ページをご覧くださいと思います。有収率の状況ですが、どれだけご家庭へ給水したかという割合ということで、100%から引いた分がどこかで漏水していたり、別で使われていたりということで、数字で表されています。途中を見ていただくと上から3番目のグラフが19市の平均ということになります。上から豊科・三郷・市全体・堀金・穂高・明科の順になっています。市内全体の数字として合併時の平成18年には有収率は市内に81%、現在平成26年度末の数字では79.4%で、徐々に下がってきている状況にあります。安曇野市として布設替は行ってきていますが、漏水調査は今まで行っていません。明科・穂高ではだいぶ有収率が低いという話を議会でいただいた中で、平成26年度から明科で7キロの範囲の漏水調査を行い、27年度全体では77キロ、明科は33キロ、穂高は44キロ漏水調査を行い状況把握しているということです。中には住宅へ持っていく本管の継目で漏れていたり、明科の場合は大きな管が破管、水位が高いところですので、一緒になって分からないところがあったり、例えば25年から26年の明科につきましては、偶然ということもあったんですが、一部調査の中で判明したところを修理して、有収率が上がったということで、今後、お話にありました堀金地域も明科・穂高地域の漏水調査が終われば、堀金地域の漏水調査を行いたいと考えております。原因ということでございますが、明科・穂高をみると、VP管、塩化ビニール管を古くに布設したところで、それが昔のため、砂捲きとあって、下にサンドクッションのない状態で掘ったところに布設されて土圧によって下に石があってそこで割れているとか、40年位前の水道管ですと、品質が今に比べて塩化ビニール管も悪いのでそういうものが劣化しているということで、堀金地域もVP管の比率が高く、調査してみないと分かりませんが、有収率が低いということで、調査しながら原因を明らかにして老朽管の布設替えと、漏水修理は施設の老朽度を表していると思いますので、やはり更新していくということも念頭に考えております。以上です。

臼井長男委員

今聞いた話の中で、VP管の関係があるのではないかと思います、とするなら合併時の平成17年の堀金の有収率は分かれますか。

事務局（水谷茂上水道課長）

はい、堀金は78.9%です（平成18年）。

臼井長男委員

それが下がっている。その後には下水道整備工事を行い、管の見直しを行っていると思いますが、その辺の関係でどうなっているのでしょうか。

事務局（水谷茂上水道課長）

他の地域もそうですが安曇野市では今まで手がついてなかったということですが、明科・穂高地域も、特に穂高の場合は別荘地帯のほとんどがVP管の口径150、100、75ということがありまして、いま布設替えを行っておりますので、だいぶ改善されるのではないかとということで、数字が出てきた段階でのお話ですが、堀金地域におきましては29年度に漏水調査を行えると思いますので、ちょっと高いところからやっついていかないと、なかなか全体的な効果が出ないものなので、そこが終わりましたら三郷、豊科の方に手を付けていき、ちょっと原因は推測ということで、又調査したらご報告させていただきます。

白井長男委員

そういうことですが、まだ現在、水を垂れ流しているということではもったいないので、早めに投資して前倒しで調査をした方がいいんじゃないかなというふうに思います。

飯沼良明会長

有収率というのはどういうことで、分母、分子とか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

はい、有収率ですね。水源地、配水池等から使われる皆さんに送る水があります。実際それに対して皆さんが使っていた水がありますが、送った水を分母、実際お金になる水が分子になります。その差というのは送った水より使った水の方が少なくなりますので、その間にどこかで漏水、水道水を配水管で配る間に、穴や傷があって水が漏れ出していて、実際送る量より使っていただく量が少ないということが予測されます。送る量が多いと無駄な水を送っているわけですから、そこにかかる動力費である電気料など効率の悪い、余計な経費を掛けている水を送っているということになるので、早めに改善して送った水イコール皆さんで使ってお金をいただく水、これが100パーセントなれば理想ですから、それに近づくように今後努力をしていきたいと考えています。

飯沼良明会長

水道水というのは使わなかった水は川に流れていくということではないのですか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

一部は管の中に汚れなど溜まるものですから、それを排水するというのもあるのですが、基本的には送った水を使っていたいでいます。若干清掃とかそういうもので水を使うことはあります。

飯沼良明会長

ご質問と回答の訳が分った気がします。

窪田朗子委員

この安曇野市の数字は松本市とか長野市など同じような環境の自治体と比べてどうなっていますか。多いのですか、少ないのですか。

事務局（水谷茂上水道課長）

19市の図をご覧くださいと、折れ線グラフ、又は左下の、まだ平成25年で26年度の数字はないですが、平均で82.5%となります。5ページになりますが、見ていただくと豊科・三郷は19市を上回っていますが、他は下回っているので市全体としては、19市中で16番目とか、17番目とか、になります。やはり穂高地域の人口・使用量が4割程度ありますので影響が大きいと思います。

窪田朗子委員

以前聞いた時には、明科地域の漏水調査は難しいという話でしたが、これ以上の改善は見込めないのでしょうか。

事務局（水谷茂上水道課長）

機械も進歩しまして、これまでの電気式探査機は、人が耳に当てて道路上のところを探査でしたが、今は多点式、データログというものが新しく出てきて、精度もだいぶ良くなりました。道のセンターとか十字路にある仕切弁という、水を止めたりするところを開け、接点を付けて、途中にある消火栓とか、次の交差点のところに行き、仕切弁の鉄の部分にセットします。8点くらいできますので一回に広い範囲ができ、データを収集すると漏水箇所がある程度特定できるということになります。また、記憶装置ができて、最終的には人が今までの装置で行ってきたように、近くに行って最終的には点を決めて掘って確かめるという形になります。穂高・明科で77キロやりましたが、一月半で77キロのところの漏水箇所が分かり、全体では空気弁も入れ、19か所程度見つかり、一か所を除いて全部修理が終わっています。後はどのくらいデータが蓄積して、有収率が上がるのかなというところですよ。

窪田朗子委員

本当に進歩しているんですね。

飯沼良明会長

他に、はいどうぞ。

平林博委員

私、明科地域として、以前この審議会では水道料金が旧5町村によってまちまちなので、それをゆくゆく統一するという話聞いてはいるのですが。最近話題には出てないので、何年後くらいに統一となるのか、分かる範囲で結構なのでお聞かせ願えればと思います。

事務局（二木貞安経営管理課長）

これからお話しする水道ビジョンの中で、水道事業について検討させていただきます。将来の投資計画、財政計画につきまして検討を行う予定です。まずは現在4地域、豊科と三郷に関しては事業統一をし、水源転換事業を行いましたので、豊科と三郷事業を合わせて安曇野市事業とし、ほかの事業については、それぞれ穂高事業、堀金事業、明科事業という形になっていますので、事業統一をする中で検討をしていきたいと思っています。それによりどのくらいの投資がいるとか、財政計画がどのくらいということがあるので、それをもってある程度検討し進めていきたいと思っています。

平林博委員

例えば何年後とか、具体的な計画はあるのでしょうか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

議会の折にも、議員さんから質問をいただいておりますが、その計画を作っているいろいろ検討しないと今はっきりどのくらいとか、早期に統一することが理想なわけで、それに審議会で統一する方向で答申をいただいておりますので、それについてはビジョンの中で検討させていただきたいということで、いつぐらいかは現段階では申し上げられない状況です。

事務局（竹花顕宏上下水道部長）

今、水道料金についてのお尋ねがございました。確かに過去、合併から今日に至るまで旧5町村が一つの市になったわけがございますけれども、事業そのものは、豊科と三郷は事業統合して一つの水道事業とはなりましたが、それ以外の穂高と堀金、明科につきましては、それぞれまだ旧町村単位の事業体が残っていて、イコール料金も異なっておりました。この料金につきましては統一をしていきたいという理想に向けて、水道料金には基本料金と従量料金というものがございますが、基本料金につきましては統一させていただいたところがございます。現在は従量料金分について、基本料金の一月あたり10立方メートルを超える、超過分に掛かる従量料金については各事業体により異なっているのが現状です。この従量料金についても将来的には統一をしていき

たいというのが理想で、それに向け努力をしていかななくてははいけませんけれども、一方で私どもの水道事業の将来につきまして、またご説明していかななくてははいませんが、人口減ですとか、各利用者の方々の水の使用量が少なくなっていくとなりますと、私どもは税金を投入して事業を運営しているのではなく、水道料金で全ての経費を賄っているということになりますので、収入の根幹、大部分を占める水道料金というものが、基本的に今後は先細りになっていく恐れがあるのではないかなと思っております。その一方で、今後、先ほど有収率の話がありましたが、有収率が低いということは、水道管の老朽化が進んでいるというのが一つの原因でございまして、老朽化している水道管の更新をしていかななくてははいけません。それから一昨年地震が起きました、また、停電というものが起きたりし、こういう時にも、なるべく水が送られないという状況を回避するための対策も採っていかななくてはならないということがあります。一方で水道料金の収入というものと、今後投資していかななくてはならないものとの投資のバランスをどういうふうにしていかななくてはならないのかというのを、今後水道ビジョンの策定の中で考えていきたいと思っております。その中で水道料金という料金の水準が今のままで賄えるのか、それとも料金を上げなくては必要な設備投資を行えないのか、つまり料金を上げて必要な設備投資を行うのかといったことについても、いろいろ考えて今後の判断をしていかなければはいけません。その中で料金の統一というものも、可能性について模索していきたいという、現在はそのように考えているところでございます。

飯沼良明会長

時間で制限するつもりはありませんが、突っ込んだ質問も出ましたし、次の議題に入ります。

飯沼良明会長

「安曇野市水道ビジョンについて」を事務局から説明をお願いします。

～事務局から説明～

飯沼良明会長

ありがとうございました。それではただいまの説明に対してご質問のある方はよろしくお願ひします。

望月静美委員

新水道ビジョン策定スケジュールの平成28年度7月から9月に個別事業を提言するとのことですが、個別事業というのはどういったものを考えているのでしょうか。

事務局（水谷茂上水道課長）

一例として、実施計画という3年から5年でどんなことをやるかという、部の中でどういう事業行うのかを計画するのですが、H29年度から豊科・明科の整備事業があります。豊科の田沢橋に田沢方面に配水管が添架されているのですが、これは昭和30年代に橋に添架されていて、災害時等があった場合には橋が落ちてしまう。そのとき田沢側には水源がないので、通常ならば仮設管を引けば水は行きますが、川とかがあり、引けるかどうか分からないという状況があり難しいという話です。そこで、明科の第二水源から水を送ってきて、豊科の光配水池の場所に増設をし、水道水を供給しよう。そうすれば明科の川東配水池も昭和40年代前半の配水池ですが、地滑り警戒区域にあり、建て替えには下に住宅があるなど、危険なこともあります。施設の統廃合をしながら豊科や明科の水を供給していこうという事業も考えています。

務臺和加代委員

今日この会議に出席にあたり、三郷の方々からぜひ伝えてほしいという言葉が大勢からいただきまして、水源転換になり、水道水が大変おいしくなりました。それはみんな本当に喜んでいるということ、ぜひ伝えたいと思います。それと今聞いていて、水道事業は色々な問題を抱えていたんだということが分かったんですけど、今後事業を進めていく上で、真っ先に手を付けて

いくのは、どの事業なのかなというところを聞きたいです。いくつかの問題を持っていてそれをすべて手を付けるのは難しいと思うので、まずどうしても手を付けていきたいのはどの事業なのがお聞きしたいです。

事務局（水谷茂上水道課長）

今回の水道ビジョンというのは、まさに務基さんのおっしゃられた、何を最優先にやるかというのを選択する形になります。先ほど部長からも説明がありましたように、4事業を統合していくというのが一番大切なことになります。4事業統合した場合には4軒の家がそれぞれ働き口が違ったり、借金も違ったりするのを一緒にやっていきましょうということで一つにして、お金も、人数が違って、一緒になって、協力し合って、事業ができるという形になります。例えば三郷の方はある程度事業が終わってききましたので、そちらの収益を他の地域で使うという形にもなります。事業統合というのが一番大事かと思えます。その次は、担当から話をさせていただきました次回以降の関係で委員の皆様と一緒に課題というのを提起させていただきますので、ご一緒に考えながら、優先順位は私どもで付けさせていただきますが、話を聞いていただいた中で、どこの施設の更新を早くしてもらいたいなど、ご意見をいただきながら進めさせてもらいたいと思っています。

務基和加代委員

はい、分かりました。

飯沼良明会長

家族のお話なんかは分かりやすかったと思いますが、他に何かご質問ありますか。

百瀬重俊委員

家族の云々もありますが、給水収入をみると大口の使用量が減ってきていることが大きいと思いますが、一人年間2リットル減ってるというよりも、大口の減少が主な原因だと思いますが、その対策を考えなくてはいけないと思うのですが。

事務局（水谷茂上水道課長）

水道としては大きな話というわけにはいかないですが、まずビジョンの中では工場団地や開発は観光とかそちらへ話をし、団地がどういう風にとできるとかは総合計画の方で参考にさせていただきます。給水量とかを積算させていただきます。そのデータという形です。お手元のペットボトルの関係ですが、今の話の前に話しさせていただいて申し訳ないんですが、10周年記念ということでペットボトルを作らせていただきました。おいしい水をPRするというで作らせていただきました。じゃあどこの水がいいかということで調査したのですが、どこの水も厚労省のおいしい水の基準をクリアしているということで、平成19年度に市民の皆様においしい水の利き水をし、ミネラルが少ない方が口当たりが良いということで、堀金の岩原の水を使っています。違う面につきましては、ペットボトルは今まで加熱殺菌で2年くらいの賞味期限で、そういうものにつきましては細菌が入った場合には繁殖するというで、よくクレームになりますが、こちらの方はセラミックフィルターで常温濾過していますので、5年使えるものでPRさせていただいております。本題の話をさせていただくと、マラソンなど県外から来ていただくときに、PRとして配らせていただくのと、まち・ひと・しごと総合戦略でも一翼を担っていくということですので、水道で企業誘致ということではございませんが、そういうものを推進していくということ考えています。

百瀬重俊委員

事業者では地下水を汲み上げ、私たちの地下水を使われてしまっているという事業者もいるわけですね。その辺のところ、何とか水道事業の水道水を使わせていただくというような、今は法令的に無理かと思いますが、進めていくような形をとって、その中で収入の方を増やしていけないかなと思います。今工場で使っている水、地下水を汲み上げられてしまっているわけです。水道事業で汲み上げられた水は個人からお金を払ってもらっている。一方で吸上げられ

てしまっている水は事業者で使ってしまったということで、統一的になっていない。何とかならないかと思えます。

事務局（水谷茂上水道課長）

現在、安曇野市は「地下水条例」をつくり環境課で対応しています。話を聞けば、まだ企業の方にも賛同していただきながら計画するようなのですが、水源保護のために汲み上げている企業からお金をいただき、水源の保全に使っていきたいという方向性は持っているようです。

百瀬重俊委員

水源保護のために活動しても、水道事業が汲み上げるならいいけど、他の事業者のところまで汲み上げられてしまう場合があるわけです。他の事業者との関連もあると思いますが、市の環境マネジメントとその他の全体の問題として組み込んで欲しいのですが、あっちはあっち、こっちはこっちはよくないと思います。田んぼに水を張ったりしていても業者がとってしまったらおかしな話になってしまう。そういったことで水道事業に優先するようにはあるいは税金をかけるなどで解決をして欲しい。

事務局（竹花顕宏上下水道部長）

大変重要なポイントだと思います。おそらく市長サイドも地下水の保全、この地域の市民の皆さんの大切な資産である地下水というものを大切に保全していく、環境を保全していくということを最優先の課題とお取りまして、市政の方針の一つとして進めております。先ほど課長もお話ししましたが、平成26年度に地下水保全のための条例を設けまして地下水を汲み上げて何かするということなどときには、その行為に対し市が係りをもって、過度に地下水が損なわれないような取り組みをすべくやっているところです。企業さんにとっては私たちの水道水を金を払って使うよりも、地下水を汲み上げた方がコスト削減になるならそういった動きが一方であるのでしょうか。私たち公営企業という企業の一つでありますから、コスト削減をするという行動をすることについてはなるほどなあと思うわけです。一般の人にとってみても家計がなかなか厳しいので節水しよう、なるべく公共料金の負担を安くしようといういろいろ節約意識がはたらくのと同じ部分もあるのかと思います。企業は利益を最大化するために地下水を利用して利潤を増やそうとそういった動きが一定程度あるのでしょうか。それに対して行政として地下水の保全という観点からと私たちの地域にお呼びをして地域の活性化を雇用の創出といったプラス面を考え、総合的に市としてこういった皆さんに係わりをもっていくのか、というところのバランスを取りながら今、市長はいろいろな方策を考えていると聞いています。私ども水道事業者としてみれば本当は地下水よりも水道水を使っていたらいいかと思っておりますし、もっと言えばコンパクトシティにしていた方が供給するにあたっては便利な部分もあるけれども、これは水道事業者としては現実的にはなかなかそういうわけにはいかないところです。私どもとすると表の給水区域内に住んでおられるお客様には、常に安定的に供給するようにするのが私たちのミッションであるので、それ以外の、コンパクトシティの推進、地下水の保全といったものは同じ市役所の中でも別の市長部局で中心になって考えていくという役割分担もありますが、地下水の保全ということは大変市の重要な市政のポイントの一つでありますので、その辺は必要があれば係わって行きたいと思っています。以上です。

飯沼良明会長

微妙な問題ではありますが、これは逃げてはいけません。厳正に処するものは厳正に処していかないと、公平性が失われると市としてのまとまりがなくなっていくので、ぜひ厳正に対処していくべき内容だと思います。厳しいご意見ありがとうございます。

百瀬重俊委員

安曇野市水道事業は公共性の高い事業だと思いますので、その辺のところを優先にという方針でいってほしいと思います。

事務局（竹花顕宏上下水道部長）

今地域でどれだけの地下水が埋蔵されているのか、調べるのはなかなか難しいですが、いろいろな角度から包蔵量というか、含有量というか、地下水が以前に比べてどの程度変わってきているのか調べたりして、非常に高く関心を持って市として取り組みを進めています。私どもも一事業体として地下水を使わせていただいている立場ですが、私どもは100%市民の皆様に水を供給するためのみに地下水を使用しているということで、地域の財産である地下水を地域の皆さんに使っていただくために使用しているのみです。

百瀬重俊委員

それを優先的に、それを考えてやってほしい。地域のためにやっているということなので、一般企業と同じレベルで進めようとするのはよくないと思います。

事務局（竹花顕宏上下水道部長）

新たな制度設計を行っていくときには、私どものセクションとすれば、そういうことをお願いしていくということでもあります。

飯沼良明会長

ありがとうございます。他にございましたら、どうぞ。

平林博委員

現在明科地域から生坂地域に送水されているのか、またその水量を教えてください。

事務局（水谷茂上水道課長）

現在も分水ということで送っています。だいたい日量、600～650m³、年間1,500万円程度の料金をいただいています。生坂村との話し合いも行っていますので、課題も次回以降で提示させていただきたいと思います。

平林博委員

水源はどこになりますか。

事務局（水谷茂上水道課長）

水源ですが、七貴の第3水源地ということで、旧明科の水道課の建物のところに水源をもっていて、あそこから川西配水池まで上げて、川西配水池から荻原配水池に送り、生坂に送る分と荻原に送る分と2系統で行っております。

飯沼良明会長

他にございましたら、どうぞ。

窪田朗子委員

最初のころに事業統一とか水道料金統一に当たって穂高事業の借金がネックということが言われていましたが、そういうことはだいぶ改善されてきているのでしょうか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

穂高については、合併前はかなり大きな事業を実施したということで、借金がかかなり残っています。事業を新しく行うには、利益を蓄えていくのが理想なので、穂高についてはそれがまだできていない状況です。現在利益を留保できず、いわゆる自転車操業を続けています。償還金が減少し改善されていけば、来年、再来年と徐々によくなっていきますが、現在穂高・明科については苦しい経営状況となっています。

窪田朗子委員

今はまだ事業統合の話はないということでしょうか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

その辺は、先ほど話のあったとおり、事業統合して、余剰のある事業と統合する中で、一つの家族の中である程度お金を運用し、必要な事業を行っていくということになります。

窪田朗子委員

最初のころ、それはできないとの話でした。他の委員さんからそういう話にしたらいいんではないですかと話したら、それはそれぞれの事業なので、借金を減らしてからということでしたが、そういう状況からはだいぶ変わってきているということでしょうか。

事務局（二木貞安経営管理課長）

理想としては事業統合、安曇野市全体を一つの事業として行うことが理想でありますから。明科も償還金がだいぶ少なくなってきました。穂高も償還金返済のピークを越えればだいぶ少なくなってくるので、お互いの事業で蓄えた資金、安曇野市全体とすればかなりの資金を持っていますので、今後の整備計画、財政計画を立てて事業運営をしていきますので、統合統一をして進めていきたいと考えています。

飯沼良明会長

他にご質問がなければ、その他について事務局からご説明をお願いします。

・その他

「安曇野市上下水道料金センター」開所について事務局から説明をお願いします。

～事務局から説明～

飯沼良明会長

会長として審議会の位置づけとか、役割とかをよく理解しないままに引き受けてきたわけですが、水道事業に関して、審議会に諮りたい内容があれば、行政の判断で招集権は私にあるので、連絡をぜひご連絡いただきたい。審議会委員の方でも、そんな話を聞いたけれども行政に意見を申し上げたいということであれば、私がパイプ役となりますので、行政に伝えますので、今後の審議会の進め方として、そんな方針でいきたいと思っておりますので、お願いします。

事務局（竹花顕宏上下水道部長）

これから新水道ビジョンという、今後10年間の長期経営計画を作っていきたいと考えております。作っていくプロセスは先ほどの資料でお示ししたとおりですけれども、まず私どもの方でたたき台を作りまして、審議委員の皆様方にご説明をさせていただいて、私どもの案について修正、追加、削除といったご意見をいただき、それも踏まえて、それをフィードバックするというプロセスを経て作っていきたいと思っております。審議委員の皆様のご意見もありますし、市長に対してその旨を報告して市長の判断を仰がなくてはいけない部分もありますし、最終的にはパブリックコメントという形で一般市民の方に原案を提示して、最終的にご意見をいただくというプロセスを経るわけですが、原案を作るまでの過程は、まさに審議委員の皆様方にご相談しながら進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

飯沼良明会長

委員の皆様よろしいでしょうか。ご審議ありがとうございました。市川副会長に最後のごあいさつをお願いします。

市川節子副会長

今日は皆さん活発なご意見があり、自分で納得できるまでお互いに意見を出し合い、素晴らし

い審議会になったと思います。家に帰ってからも、もう一度、資料を読み返して今日の話しを反芻して今後の審議会に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○閉会

事務局（二木貞安経営管理課長）

ありがとうございました。以上で安曇野市水道事業運営審議会を閉会とさせていただきます。

終了 午後 3 時40分